

2013年1月

福祉をかえる「アート化」セミナー@宮城  
福祉をかえる「アート化」セミナー@福島



2014年4月

「モノづくりのためのコンセプトワーク」@岩手  
「モノづくりのためのコンセプトワーク」@宮城



2014年8月

「実践!モノづくりのためのコンセプトワーク  
～せんくら編」

- ① 商品の具現化・イメージマップ講座
- ② 商品のアウトプット・パッケージ講座



2014年9月

「実践!モノづくりのためのコンセプトワーク  
～せんくら編」

- ③ 個別相談会 / 商品公開&選考デ

ショップ「ハチブオンブ」ができるまで

はじめは、2013年1月に仙台で開催された「Good Job! 東北プロジェクト福祉をかえるアート化セミナー」。この時期は復興需要の減少を背景に施設の売り上げが減少傾向にあり、今一度「何のために商品をつくるのか」という根本に立ち返る必要があるという問題意識がありました。

2014年春、難民を助ける会による支援を受けて「モノづくりのためのコンセプトワーク@宮城」を開催。夏にはさらに具体的で実践的な研修を開発する話が持ちあがりました。

秋、「せんくら」販売会を念頭においた「実践!モノづくりのためのコンセプトワーク～せんくら編」を開催。実は、2013年のせんくらでもいくつかの福祉施設に声をかけ出店したのですが、売り上げは3日間でわずか10万程度。この実践型の研修の機会に、商品や販売方法の質を高め、販売を通じて確かな成果をあげることがめざしたのです。

「実践!モノづくりのためのコンセプトワーク～せんくら編」では、ターゲットの具体化とイメージマップの作成、パッケージデザインやアウトプット手法などを実践的に学習。課題を言葉にし、整理することで根本的なコンセプトを導き出し、日常の商品づくりにつながる価値を創造するワークを集中的に実施しました。また、「せんくら」を主催する仙台市市民文化事業団の全面的な協力により、基礎情報の収集と精査を徹底。イベント概要、客層、販売会の様子などを把握したうえでブランディングは、今までになく具体的なものとなりました。さらに、とすれば目分量になりがちな価格をいかに適正に保つかというポイントも、価格設定や製品原価計算の方法な

はずむ  
キモチ

# ハチブオンブ

「楽都仙台」と称されるほど音楽活動が盛んな都市、仙台。なかでも、毎年10月の3日間、街がクラシック音楽にあふれる「仙台クラシックフェスティバル（略称、せんくら）」は、多くの市民に愛される仙台秋の風物詩です。ホール公演に加え、市街地や地下鉄駅構内など多様な会場で80以上のコンサートが行われ、震災以後は音楽の力による復興をテーマに、街に元気をもたらしています。

2014年、この「せんくら」の会場にショップ「ハチブオンブ」が出店しました。Good Job! 東北プロジェクトのセミナー「実践!モノづくりのためのコンセプトワーク～せんくら編」から生まれたものです。商品は、多夢多夢舎中山工房、みどり工房若林、すびなつち（以上、仙台市）、工房地球村（山元町）、さくらんぼ（多賀城市）の7施設とエイブルアートのカンパニーが全3回の講座のなかで「音楽」をテーマに企画・制作したものを。参加者は、八分音符にかけて音から楽しさをイメージさせるショップ名「ハチブオンブ」や、キャッチコピー、ディスプレイを、思考錯誤しながらつくり出しました。曖昧になりがちなたーゲット設定からコンセプトメイキング、商品開発から販売計画まで、出店への流れを一から学ぶことで、より具体的で魅力のあるものづくりを実現。「音楽」という共通のテーマで、複数の施設が協働開発するプロジェクトはエイブルアート・カンパニーとしても初の試みでしたが、3日間の売り上げは前年の4倍となりました。参加者はセミナーによる成果を実感。確かな手応えが得られました。







# ハチブオンブ

ショップ名: **ハチブオンブ**

クラシック音楽を聴くことで日常が特別になるような、ウキウキした気分を八分音符にかけて表現。

ターゲットイメージ: **50~60代の女性客**

(2013年の仙台クラシックフェスティバルの主要客層を参考に設定)

ショップイメージ: **親しみやすく、ポップで  
やわらかい雰囲気**

商品イメージ: **プチセレブ感を楽しめて  
せんくらの記念になるもの**

## 参加施設・団体紹介



**工房地球村**  
宮城県山元町

地球村では、お仕事の合間にみんなで楽しくお絵描きをしています。今回は、地球村メンバーのアートと、デザインユニット bond とのコラボで、素敵なバッグができました。



**多夢多夢舎中山工房**  
宮城県仙台市

仕事と個性が結びつき、tam tam dot という新しいブランドが生まれました。多夢多夢舎に集う人たちの明るさ、楽しさ、あたたかさが人びとに伝わるようなものづくりをめざしています。



**まどか**  
宮城県仙台市

オリジナルキャラクターのオーヤ、メンバーが描いたユニークな楽器の絵を使い、シルクスクリーンプリントであたたかみと楽しさが伝わるグッズをつくりました。



**さくらんぼ**  
宮城県多賀城市

被災家屋の配線の被膜をむいてト音記号に加工したクリップやストラップ。はじまりの記号・ト音を復興のシンボルとしてメンバーがハンドクラフトで一つひとつ製作しています。



**アトリエ・ソキウス**  
宮城県仙台市

pon pon works はシンプルな形と色のピンパッチを組みあわせることによっていくとおりも楽しめる商品です。音楽のリズムのようにポンポンつけば、気分も弾む作品です。



**みどり工房若林**  
宮城県仙台市

ピアノの鍵盤をあしらったペンケース。パンチングレザーを使い、一針一針心を込めて縫っています。日常に音楽という楽しさを加えて、いつもを特別なものにしませんか?



**すびなっち**  
宮城県仙台市

壊れたガラスを集めてキレイに洗浄し、細かく割り、重ねあわせて焼成します。今回は音符や月光など、音楽をイメージしたペンダントをご用意しています。



**Able Art Company**  
エイブルアート・カンパニー

エイブルアート・カンパニーのアーティストが描くさまざまな「MUSIC」。あなたの毎日に素敵なメロディが響きますように。

2014年10月

## せんだいクラシックフェスティバル2014 ④ 販売会



## 「実践!モノづくりのためのコンセプトワーク ~せんくら編」

⑤ まとめ&実績報告会



どの講義によってクリアに。講座をふまえて改良を重ねた商品の公開選考会には施設関係者だけでなく、仙台フィルハーモニー管弦楽団の楽団員の方がたも参加。音楽のプロの目から商品を批評していただきました。

満を持してのぞんだ販売会には、3日間で約1,000人が来場。セミナーを通じてブラッシュアップされた商品は多くのお客様の目に留まり、1日目で売り切れてしまう商品も出たほど。施設職員が自ら店頭で接客をしたり、メンバーが様子を見に来て、楽しそうに買い物をする姿も見られました。

また、販売会の後は実績報告会を実施。当日の成果と今後の課題を発表しあい、今後の販売機会につながるノウハウを共有しました。適正な値札の表記や付け方から、商品のディスプレイ方法、ターゲットの再設定など各施設の課題はさまざま。しかし、生きた学びは必ず今後につながるはず。

今回のように、講座から実践、フィードバックまで一貫した試みは Good Job! 東北プロジェクトではじめての試みでしたが、確かな手応えを感じる学びの場となりました。商品の全国展開や2015年の「せんくら」に向けて、これからもプロジェクトはつづきます。

## 参加者の声



NPO法人ソキウスせんだい障がい者小規模地域活動センターアトリエ・ソキウス  
**黒田香奈子さん**



今回参加させていただき、pon pon works (ポンポンワークス) という新商品を完成させることができました。ターゲットをしぼることで、これまで販売していた商品のターゲット層が明確になり、また違った視点が見えてきました。ディスプレイや接客でも、商品の背景にある物語(たとえばどんな人が作っているか)など、小さな情報も魅力的なポイントになるのだと気づきました。なにより障害者施設の商品をおとして買い手とつくり手がつながり、その役割を売り手が担っているのだということをお互さまさまな立場を経験させていただいて改めて感じる事ができました。